

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

あけぼの

日付 平成 20年 3月 31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

この地に理事長が内科医院を開設して43年になり、地域の人々の健康福祉に寄与してきた。入院病棟、リハビリセンター、内科いこいの家と医療施設の充実をして、医療面を中心に自宅で生活する住民の健康を支えてきたが、医療と介護が一体化する事が利用者や家族に最高の幸せを提供出来ると、平成15年8月に病院と同じ区域にグループホームを開設した。病院は病人の疾患部分を治癒させる為の医療的入院に対して、グループホームは高齢者や認知症の人の障害部分を補って生活が出来るようにする為の社会的入院と捉えている。外科的措置を施す以外は、この法人グループの責任で、この地域の中で生活出来るようにしてあげられるようにしようとしているのが、理事長の目指す人間回復の大きな目標であると見た。人が病気や怪我をして身体が不自由になり、高齢化したり認知症という障害を受け、身体的・精神的に不自由になった部分を放置することなく、毎日続けるリハビリテーション、あるいはコミュニケーションによって回復させる、又は、悪化を防ぐ事によって、何時までも人間らしい生活を送って貰いたいとする理事長の目指す大きな目標が、自ら運営する毎日のリハビリテーションの1時間の行動である。

リハビリテーションセンターの中にある広間に、月～土曜日9:30～10:30の1時間、法人グループの病院施設・グループホームから50～60人の入院又は入所している人が集まる。そこでラジオ体操・身体の屈伸運動・色々のジャンルの歌唱・銭太鼓等、身体の運動や固着する関節の運動・嚥下機能低下防止や精神上活性化・リズムや発語による脳への刺激等、色々な効果を生み出そうとする。又、理事長が一人ひとりの患者と向き合い、言葉を掛けながら、その人に応じた刺激を与え、元気をつけている。集まる人は一日の大仕事にきている事と、人との交流をしているのが、利用者の充実感を生む。この法人の特長である。

倉敷市の中でも、この地域は人口増加しており、中学校も2番目のマンモス校だそうだ。65歳以上の人口より45～65歳の人が多いが、近い将来は高齢者が増加していく。これからの地域の人々のニーズに添えていく為には、医療や介護を更に充実させていかねばならない。一方、金銭的に不自由な人の面倒も見ている。昨年は近くにグループホームを開設した。

このグループの特長は医療面と介護面の職員の格差も無く、熱心な職員にも恵まれている。理事長や院長、看護総長がグループホームを毎日のように訪れ、利用者ともよく話をしてくれ、様子もよく理解してくれている。

**特に改善の余地があると思われる点**

医療と介護を一体化して地域住民の幸せな暮らしを長年にわたって支えてきたことは誰しも認める所である。

認知症についての見識も深いところであり、院内研修を年2回位したいと聞いた。その地域の住民に対する認知症啓発のために地域の介護教室等も開催してみても如何でしょうか。

## 2. 評価結果(詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：理念について改善項目はない。運営理念を具体化した行動がケアの中で実践出来るような計画をしていこうとしている。</p> <p>2、全体的にみて…：「家庭に近い環境を提供します。入居の方の充足感を生みます。日常生活そのものが、リハビリテーションになります。職員のかみ細かい心配りが身体を元気にします。そして心が豊かになります」が運営方針で玄関入り口に掲げてある。この方針に書かれている事は、理事長の目指している事を見たり、聞いているとその通りだと納得出来る。その精神が、各事業所の管理者や職員に浸透して、それぞれの事業所の運営の内容の中に生かされていると思う。方針のキーワード「充足感」「リハビリテーション」「元気」「心」は利用者に対しても、職員に対しても大切なものである。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善する事項はない。既存のハード面でも、少しずつ工夫して、使い易くしていこうとしている。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者が生活の場として使用しているハード面では、ホームの建物全体とリハビリセンターの場を挙げなければならない。そしてホームからそこに通う道路も活動の場となる。利用者は、このハードな空間を毎日フルに活用している。雨が降っても、天気の日でも、暑い真夏でも、寒い冬の日でも、日曜日を除く月～土曜日の生活の中に生きている。リハビリセンターの入り口には、グループホームの利用者の出席票があり、全部の日付けに0印が書かれていた。身体的・精神的機能を維持、又は、低下防止に使うこの広範囲の空間活用が、この法人を利用する人の「心の豊かさ」を作り出している。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善項目を挙げていないが、どの項目も大切なので、一つひとつの仕事を通じて、ケアサービスが向上していくよう努力していく。</p> <p>2、全体的に見て…：「食事介護が大変だろうと病院からホームに来て、表情も無く、ミキサー食で全介助していた人が、食べる時嬉しそうなる表情になり、簡単な言葉を発語出来、箸でゆっくりと食べられるようになった」「入所時無表情で、徘徊を繰り返していた人が、薬を抜き、生活リズムを整える事により、表情も豊かになり、車椅子から手引き歩行出来るようになり、家族も吃驚している」「骨折入院していた人が、伝い歩きから普通に歩けるよう回復した」等の事例の如くホームに来て、職員の手厚いケアと心の通いによって、人間回復させてあげている事例がたくさんある。グループホームは認知症の人でも普通の人として接し、人間としてしっかりケアしてくれる職員の集団であると考えている。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：改善項目としては挙げていないが、地域との交流や働き掛けを今以上に充実していき、地域の拠点として地域から期待されるよう努力していきたいと考えている。</p> <p>2、全体的に見て…：理事長は、この地域の人の健康と生活を維持していく為には、医療と介護を一体化していかなければならないという信念の元に、医療面の充実とグループホームを開設してきた。グループホームを地域の中で浸透させていきたいと、地域に向けての広報紙を発行する事にした。最初は文章だけだった紙面に、より深く判って貰おうと工夫を重ね、今ではホームの日常を伝える写真も掲載した楽しい「あけぼの通信」となり、地域に回覧板で回して貰っているようだ。「地域に呼ばれる事から始めようと思っている」と管理者は意欲的に考えている。今後に期待したい。</p>		